

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. C-3

<b>部門名:</b> 地域とともにある学校実践部門	<b>エントリー名:</b> 佐倉市立臼井西中学校 加藤 康男 平成30年度第1回校長研修
<b>活動名:</b> 地域連携と学校組織活性化 ～地域連携で人材育成を図る～	
<b>解決すべき課題:</b> 生徒数の減少により職員数も減り、小規模及び中規模の学校では、管理職は、日々人のやりくりで対応に追われている。地域や外部人材の力を借りて、学校を活気づかせ、中堅層の少ない現場の職員をいかに育てていくかをテーマに学校組織の活性化を図りたいと考えた。	
<b>目標・方針:</b> 経験のある中堅層が少ない現場で、いかに組織を活性化するか、ベテラン教員の活用及び若手教員の育成を同時進行で行なうことが喫緊の課題である。そこで、地域の教育力を活用し、組織の活性化と人材育成を行なう。 ① 実態把握 学校評価や日々の授業参観、学校行事の様子から 教頭と相談 ② 対応方法の検討 課題(ベテランの意欲低下と若手の経験不足)の分析から → 方針の確認 ③ 学校組織の立て直し 組織の活性化と若手育成の方策検討 → 地域の教育力の活用 ④ 目標申告の活用 機械的な面談でなく、どう職員を伸ばしていけるかという視点で ⑤ 校務分掌の編成会議 教頭、教務と校務分掌、教育課程について検討(ベテランと若手をペアにする) 次年度の校務分掌の作成 教育目標達成のための組織と教育課程の編成	
<b>活動内容:</b> ① 年2回の地域ボランティアの実施 5月と8月に生徒、保護者、地域の方も多数参加して、地域のボランティアとして、校内環境整備作業を実施。本校の特徴は、保護者以外の地域の住民が100名以上、草刈り機、トラック持参で奉仕作業に取り組む地域行事となっている。→若手教員育成の場 学級開きをして5月の環境整備作業の取組は若手教員が学級の生徒をいかにやる気にさせて、地域の方への感謝の気持ちを持ちながら作業できるかがポイント。地域の方々と接する機会とし、地域に助けられていることを実感させる。 ② 1年生ボランティア講座と2年職場体験学習 地域の教育力を借りて、生徒に福祉体験や職場体験を行なうと同時に職員が学校以外の職業の方と触れ、社会の中で生きる力を育てるには、どうしたら良いかを考える場とさせる。 ・1年ボランティア講座 共同募金、点字の学習、高齢者との交流、地域清掃、地域花植えなどのグループに分かれて、総合的な学習として実施。特に高齢者との交流では、地域の公民館に行って、手品をしたり、劇を見せたり、ダンスを踊ったりと子どもたちのアイデアを出し合い、毎回高齢者の方々から好評を得ている。高齢化社会に向けて地域の高齢者と触れあう貴重な機会となっている。計画段階で、特に若手職員に打ち合わせや運営面の相談を地域の方とさせる機会としている。 ・2年職場体験学習 行事削減の中、夏休みに親の力を借りて実施している学校もあるが、本校は、生徒も職員も地域の職場の方々に触れる貴重な機会と捉えている。学年職員の職場探し、生徒への希望調査、職場の調整、職場への挨拶訪問、2日間の体験実施、事後のお礼、体験の発表会の準備と通常の業務に加え、やらなければならないことは、多いが、生徒と職員を育てる場として実施している。 ③ 地域とともに取り組む防災訓練 地域の防災訓練に生徒も職員も参加 炊き出しや消火訓練、簡易トイレ設営、心臓マッサージなど緊急の時に必要な内容を地域の方とふれあいながら学ぶ機会 7月(生徒約30名、職員5名参加) 11月 学校が避難所となって、地域の方が避難してきて、避難所開設について学ぶ機会(H29実施)(生徒120名、職員10名参加) 地域の方の意見として、「若い生徒が元気よく訓練に参加してくれ、ありがたい」「若い力がいざという時に助けになる」という声をいただいている。 これからの高齢化社会にも、災害が起きた時には、動ける中学生の力は、熊本地震の際にも、動けなくなった一人暮らしの高齢者の自宅を救急隊員に教えて助けたなどのニュースもあり、日頃からの訓練での交流が役立つと考える。 学校の地域との連携と学校組織の活性化という意味においても地域の方々と触れる機会を生きた学習の場と捉え、ベテラン職員が、若手職員に率先して、地域の教育力のありがたさを教え、そのノウハウを伝える機会としている。	

**活動の成果:** ※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。  
 ・地域との連携に消極的だった若い職員が、高齢者との交流で生徒がいきいきと主体的に活動する姿を見て、次年度も地域交流の担当をさせてほしいと意欲的に変わった。  
 ・意欲を失いかけていたベテラン教員に若手職員の育成を任せ、地域の外部ボランティアの方との連絡役をお願いしたところ、地域の方との交流に若手を巻き込んで積極的に行動するようになった。  
 ・生徒が地域の方々に支えられていることを実感し、災害時に地域の力になろうという気持ちが育ってきた。  
 ・西日本豪雨の際、文房具を集め、被災地に寄付するなど具体的な取組ができるようになった。

**アピールポイント(アイデアや工夫):** ※3~5つ程度、箇条書きしてください  
 ・地域との連携の取組を学校の人材育成と結びつけた点。  
 ・職員構成のアンバランスを逆手にとり、ベテランと若手のペアでの活動をいかした点。  
 ・防災教育や福祉教育といった喫緊の課題で生徒と職員の育成を図った点。

